

# 平成30年度 事業報告書

## 1. 概況

(新潟県経済の概況：H30年の回顧)

平成30年10月1日現在の県人口は2,245,057人で、前年同月比では、21,064人の減少となった。総人口は平成9年2月をピークに21年連続で減少となった。総人口の内訳をみると年少人口(0～14歳)が259,994人、生産年齢人口(15～64歳)が1,262,615人、老年人口(65歳以上)712,667人であった。

自然減(出生数と死亡数の差)は出生者14,665人、死亡者30,291人で▲15,364人、20年連続の減少となっている。また、社会減(転入者数と転出者数の差)は転入者62,149人、転出者67,849人と▲5,700人で22年連続の減少であった。

総人口に対する比率では、年少人口の総人口比は11.6%で過去では最も低く逆に老年人口は31.9%と過去で最も高くなっており、少子高齢化が更に顕著となっている。また、経営者の高齢化と後継者難を背景に、企業の休廃業・解散率も全国2番目の高さで創業数の減少傾向と合わせ企業数減少に拍車がかかっている。

経済に目を転じると平成30年の県内経済は、前年からの景気回復基調が年明け以降、足踏み状態となったものの、年央以降は生産の回復と個人消費の持ち直しを背景に再び緩やかな回復基調を辿った。

## 2. 健康診断・診療部門

平成30年度は、当財団の各拠点が、それぞれ投下された設備資本の稼働をより強固にして、その営業基盤を確固なものとすることを目指した年度でありました。

### 【新潟健診プラザ】

移転オープン3年目で、将来の飛躍への足場固めとする最重要年度でした。

### 【東新潟健診プラザ】

再オープンから2年目の年度で、定着化を見極める年度であると共に、巡回健診の拠点「新潟巡回健診センター」と連携を密にして新潟市北区や新発田方面からの一般健診(生活習慣病予防健診含め)受入をより強固なものとする年度でした。

### 【長岡健康管理センター】

女性専用エリア設置やリラックススペース充実、さらに色調全般を明るいものに変更、従来のイメージを一新、健診時間の拡大や機器増設で受診者増を図りました。

各拠点ともに受診者数・売上金額とも前年度を上回り、受診者様からも高評価を頂いたものと思っております。

少子化・高齢化が他県より、早いスピードで進行していること、人口の社会減も大きいこと、平成30年に休廃業・解散した県内企業が1030件と多く、全国で2番目の高率であったこと等、営業基盤として厳しい状況が現出しており、同業他機関、さらには病院等との競争激化が更に強まることが予想されます。

「健康」「安全」という消費者のニーズを捉え、高い健診の精度の維持・向上とハード面・ソフト面の充実を図り、より高精度で快適な健診環境という他機関にはない付加価値を提供し、協会のコンセプト「病気にさせない、も医療」を合言葉に新潟の健康診断といえは「健康医学予防協会」が浸透する業務運営を徹底致します。

### 【平成30年度決算】

|        |          |                          |
|--------|----------|--------------------------|
| 売上高：   | 4,553百万円 | (前年度比+428百万円、予算費+253百万円) |
| 売上総利益： | 2,072百万円 | (前年度比+354百万円、予算比+410百万円) |
| 営業利益：  | 905百万円   | (前年度比+202百万円、予算比+341百万円) |
| 経常利益：  | 893百万円   | (前年度比+161百万円、予算比+308百万円) |